

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

R 6. 9 月 尼崎市教育委員会

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査実施日・対象人数

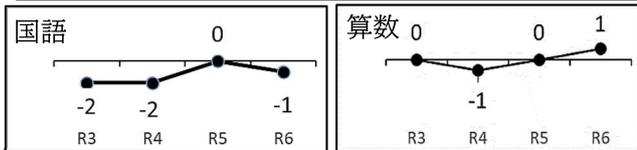
令和6年4月18日(木) 悉皆調査

| 教科/学年 | 小学6年生 | 中学3年生 |
|-------|--------|--------|
| 国語 | 3,151人 | 2,737人 |
| 算数・数学 | 3,152人 | 2,741人 |
| 質問紙調査 | 3,175人 | 2,740人 |

尼崎市及び全国の平均正答率及び平均正答数等

小学校

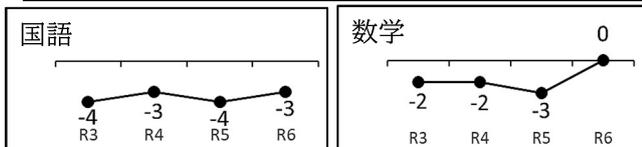
| | 尼崎市 | 全国 | 差 |
|----|-----------------|-----------------|--------------|
| 国語 | 67% 9.4/14問 | 68% 9.5/14問 | -1pt 0.1問 |
| 算数 | 64% 10.2/16問 | 63% 10.1/16問 | 1pt 0.1問 |



全国と尼崎市の差の推移

中学校

| | 尼崎市 | 全国 | 差 |
|----|----------------|----------------|--------------|
| 国語 | 55% 8.3/15問 | 58% 8.7/15問 | -3pt 0.4問 |
| 数学 | 53% 8.4/16問 | 53% 8.4/16問 | 0pt 0問 |



全国と尼崎市の差の推移

○…全国を上回った問題 △…課題があった問題

【国語】

○「目的や意図に応じて、日常生活から話題を決め、伝え合う内容を検討できるかどうか」をみる問題
△「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうか」をみる問題

【算数】

○「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうか」をみる問題
△「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうか」をみる問題

【国語】

○「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうか」をみる問題
△「行書の特徴を理解しているかどうか」をみる問題

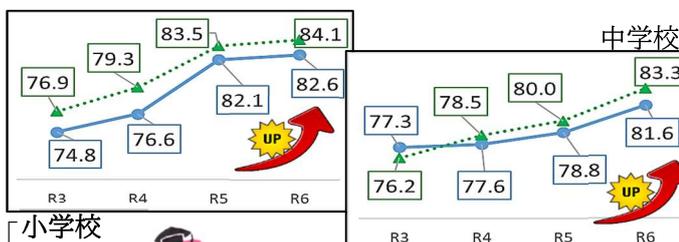
【数学】

○「等式を目的に応じて変形することができるかどうか」をみる問題
△「与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうか」をみる問題

質問紙調査で、肯定的に答えた児童生徒の割合が高い項目や、経年での比較、そしてそれぞれの項目で肯定的・否定的に答えた児童生徒と正答率の関係に着目しました。

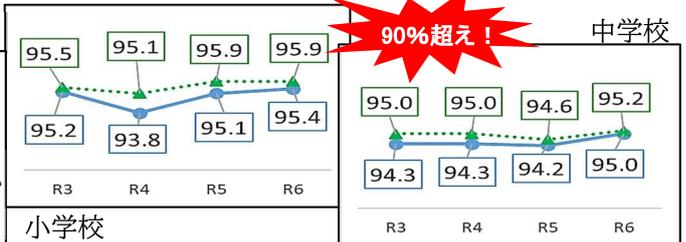
『自己肯定感』

「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに対して、肯定的に回答した児童生徒の割合(%)



『自己有用感』

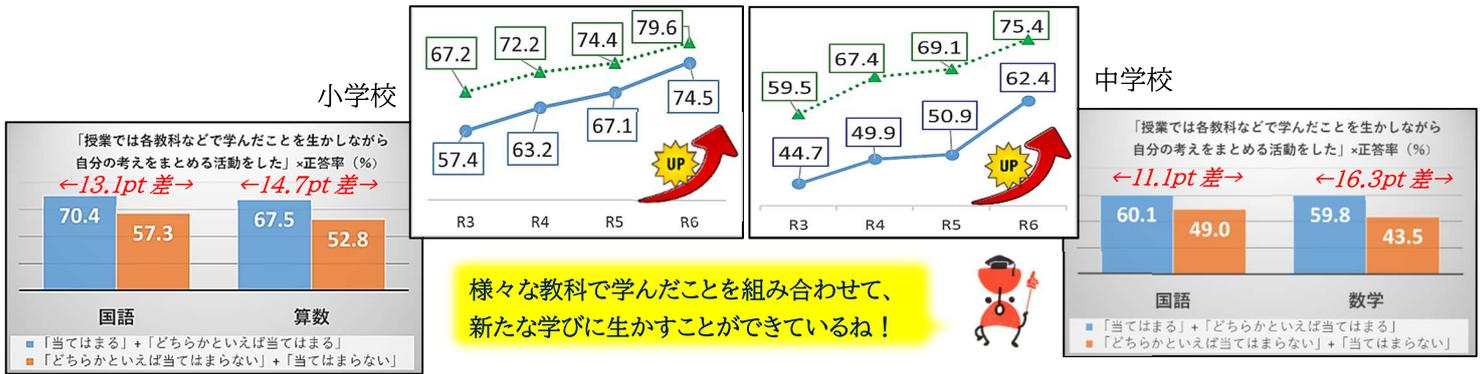
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに対して、肯定的に回答した児童生徒の割合(%)



尼崎市の児童生徒は、ありのままの自分を肯定する「自己肯定感」が高まってきているね。「人の役に立ちたい!」と思う児童生徒の割合もとても高いね!

『主体的・対話的で深い学び』×平均正答率

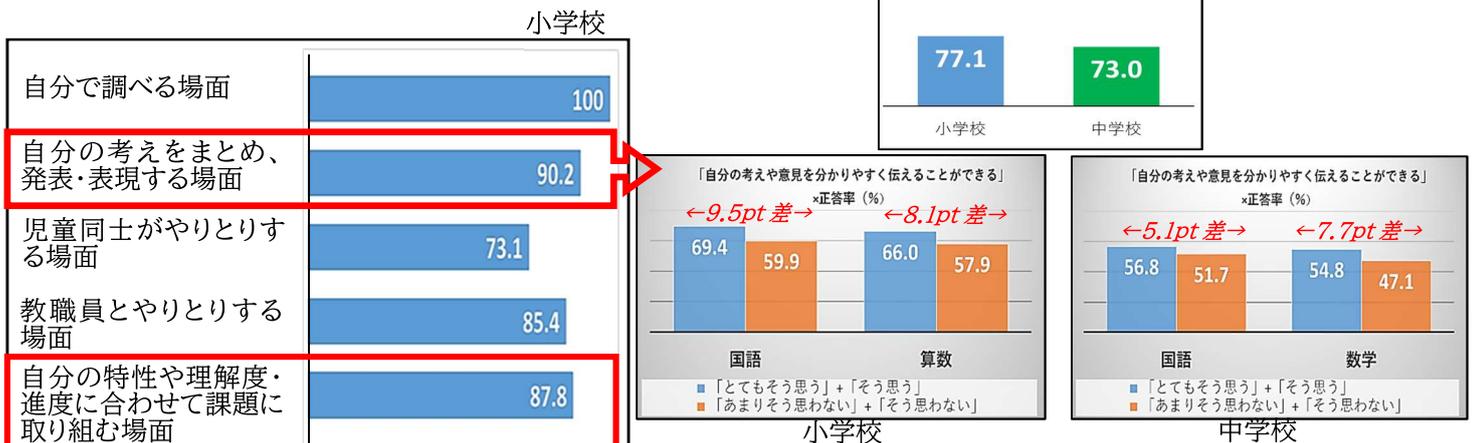
「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という問いに対して、肯定的に回答した児童生徒の割合(%)



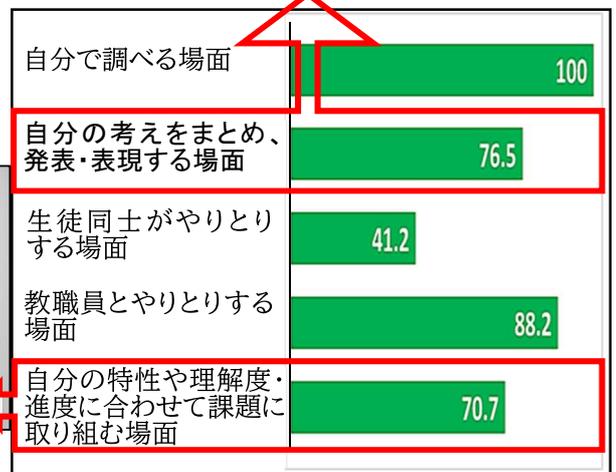
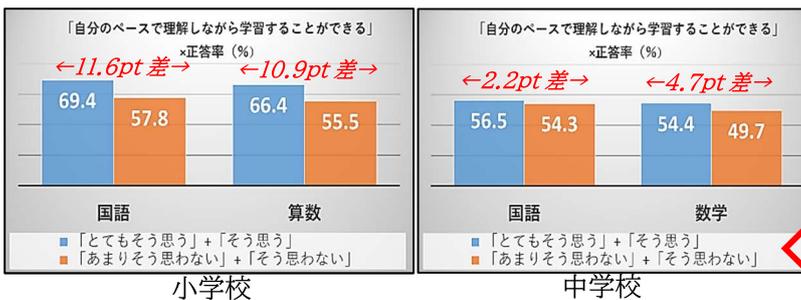
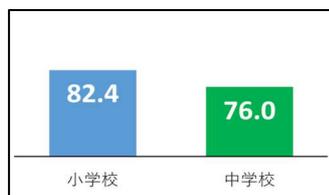
『学習での ICT 機器の活用』

「調査対象学年の児童生徒に対して、次の場面では ICT 機器をどの程度使用させていますか」という問いに対して「週1回以上」と答えた学校の割合(%)

「(ICT 機器を用いて)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」という問いに対して肯定的に答えた児童生徒の割合(%)



「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」という問いに対して肯定的に答えた児童生徒の割合(%)



尼崎市では、学習デジタルドリル「eライブラリ」を導入しているよ。分からない所や苦手な所を繰り返して学習できるドリルで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができるよ。間違えた問題は詳しい解説や動画を見て、苦手を克服しよう!